

# 鳥取県の畜産業

## — 東伯郡琴浦町を中心として —

2 回生 加藤大晟

### 1. はじめに

日本の畜産業は明治時代に勃興し、戦災において壊滅的な被害を受けるも、高度経済成長期以降の人口増や、生活水準の向上による食卓の洋風化に伴って順調に発展してきた。2019年現在、全国の畜産産出額は約 3.2 兆円であり、これは全国の農業産出額である約 8.9 兆円の約 35%を占めている。代表的な農作物である米や野菜が農業産出額において占める割合はそれぞれ約 19%と約 25%であり、畜産よりも小さい割合であることから、農業において畜産は主要な位置を占めていることになる。

さて、鳥取県には「白鵬 85 の 3」をはじめとする優秀な種雄牛の存在や、ブランド豚である「大山ルビー」、地鶏として作出された「鳥取地どりピヨ」などの様々な畜産物が存在するという特徴を持つ。これらを踏まえて、本稿では鳥取県における畜産業の実態を明らかにし、同時に鳥取県内で有数の畜産業が盛んな自治体である東伯郡琴浦町を中心にして、畜産物の生産における特徴について考察する。

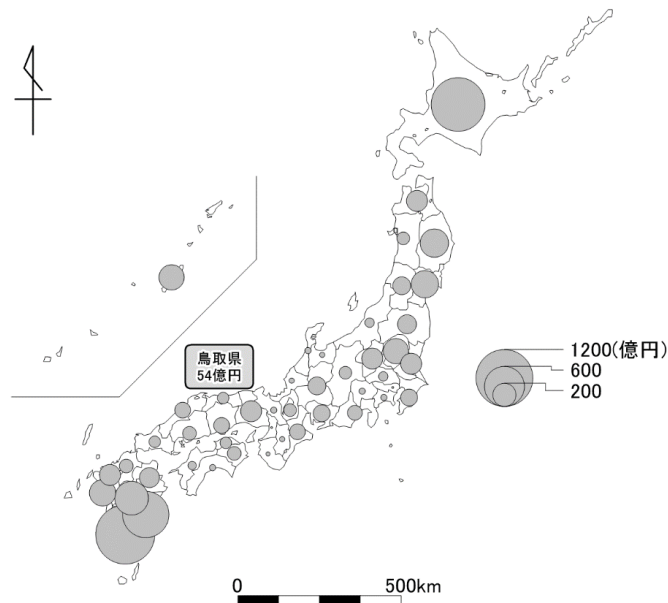


図1 都道府県別の肉用牛産出額 (2019年)  
(生産農業所得統計より作成)

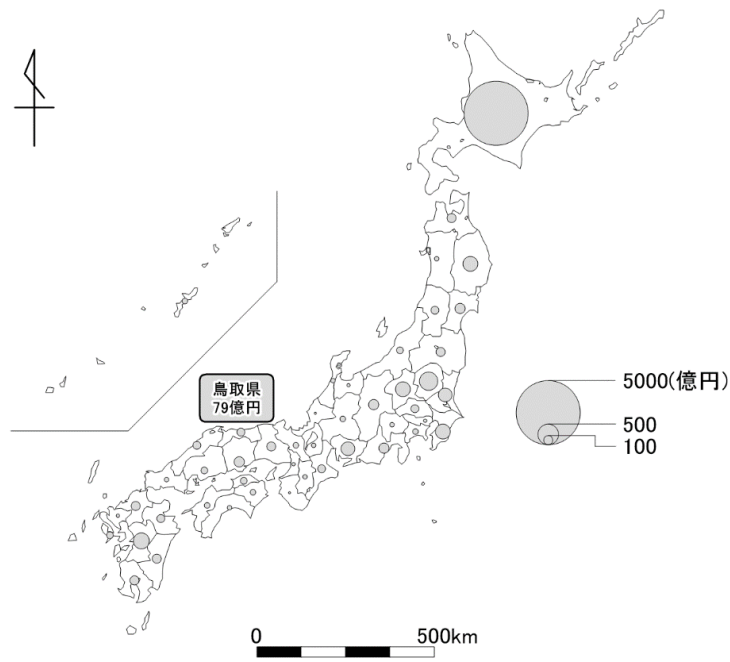


図2 都道府県別の乳用牛産出額（2019年）  
（生産農業所得統計より作成）

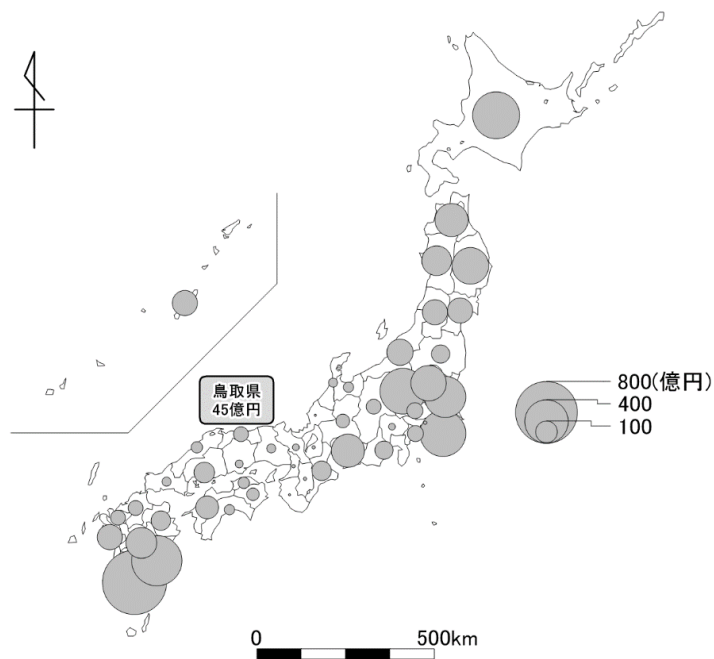


図3 都道府県別の豚産出額（2019年）  
（生産農業所得統計より作成）

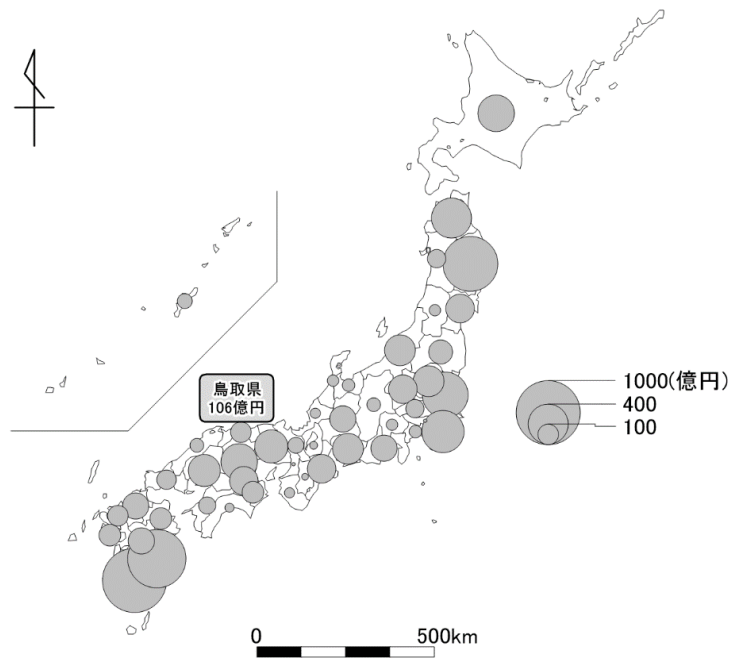


図4 都道府県別の鶏産出額（2019年）  
（生産農業所得統計より作成）

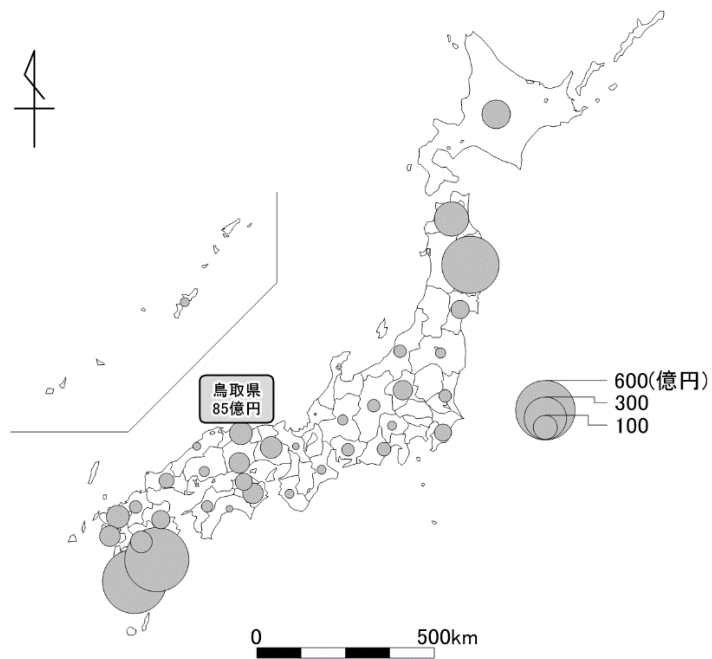


図5 都道府県別のブロイラー産出額（2019年）  
（生産農業所得統計より作成）

## 2. 鳥取県における畜産業

### 1) 全国から見た鳥取県の畜産業

まずは鳥取県の畜産業の特徴を探るために、全国的な傾向から見た鳥取県の畜産業の状況について言及する。ただし、「畜産」といった単語で一括りにすると、畜種別の傾向が見えにくくなってしまうため、本稿では畜種別に述べていく。図1より、肉用牛の産出額は特に南九州で大きくなっており、鹿児島県が1278億円で全国1位、宮崎県が780億円で全国3位となっている。また、九州以外では北海道が1049億円で全国2位の順位となっており、国土の縁辺部で大きくなっていることがわかる。鳥取県の産出額は54億円であり、全国的な順位は31位であることから、鳥取県の肉用牛の生産は全国的にあまり盛んではないと言えることができる。

続いて図2より、乳用牛の産出額を比較する。北海道の産出額が5006億円と圧倒的に大きく、酪農業が非常に盛んであることがわかる。また、栃木県や千葉県などの関東地方に位置する県も、それぞれ437億円と269億円の産出額を有し、全国的な順位で2位と4位につけている。首都圏という大消費地が近いことから産出額が大きくなっていると考えられる。鳥取県の産出額は79億円であり、全国における順位は23位であることから、全国的に見ると酪農業は中位の規模であると考えられる。

そして図3より、豚の産出額を比較する。九州南部や北海道といった国土の縁辺部に加えて、群馬県で430億円、全国5位となっているなど、大都市近郊の県も産出額が大きく、これは前述した乳用牛の産出額の傾向と同じであることがわかる。鳥取県の産出額は45億円であり、全国における順位は23位となっていることから、酪農業と同じく、豚の生産は中位の規模であると考えられる。

最後に図4と図5を用いて鶏の産出額について述べる。鶏はブロイラーと鶏卵の産出額を合わせたものであり、ブロイラーは食用の鶏を指す。図4より、鶏の産出額は国土の縁辺部や大都市近郊だけでなく、青森県の399億円、全国6位や岡山県の331億円、全国7位などの県も上位に位置しており、全国でまんべんなく鶏や鶏卵の生産が行われていることがわかる。図5ではブロイラーの産出額を示しており、こちらでは岩手県の549億円、全国3位や鹿児島県の695億円、全国1位などの南九州に位置する県の産出額が大きいことがわかる。図4で鶏の産出額の大きかった県が、図5のブロイラーの産出額がそれほど多くないことから、ほとんどの県の産出額は鶏卵によるものだと考える。鳥取県の鶏全体の産出額は106億円であり、全国27位となっているが、ブロイラーの産出額は85億円で全国7位となっており、鶏全体の産出額に占めるブロイラーの割合が大きく、ブロイラーの産出額と順位が高いことから、ブロイラーの生産は全国的に見ても屈指の規模を誇る県であることがわかる。以上より、鳥取県の畜産業は全国的には中位の規模であるものの、畜種別の産出額は必ずしも小さくはないことから、全国の畜産業において独自の地位を築いているのではないかと考えられる。

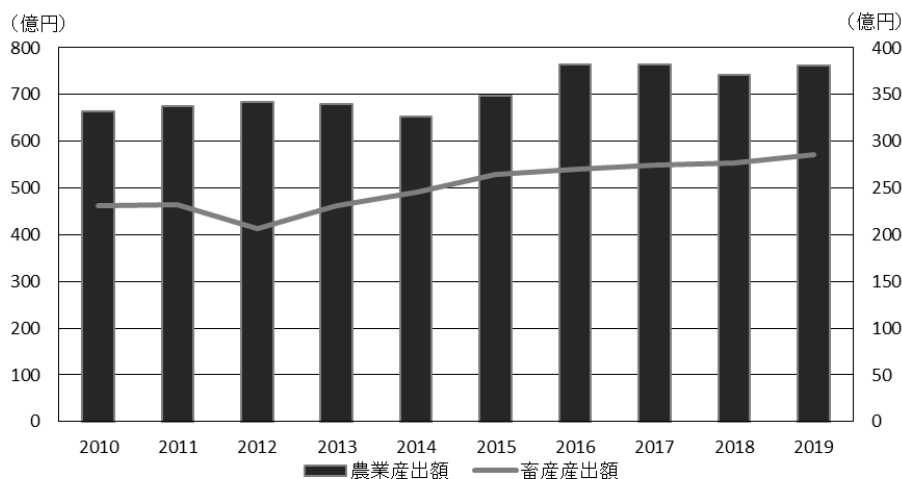


図6 鳥取県における農業・畜産産出額の推移  
(生産農業所得統計より作成)

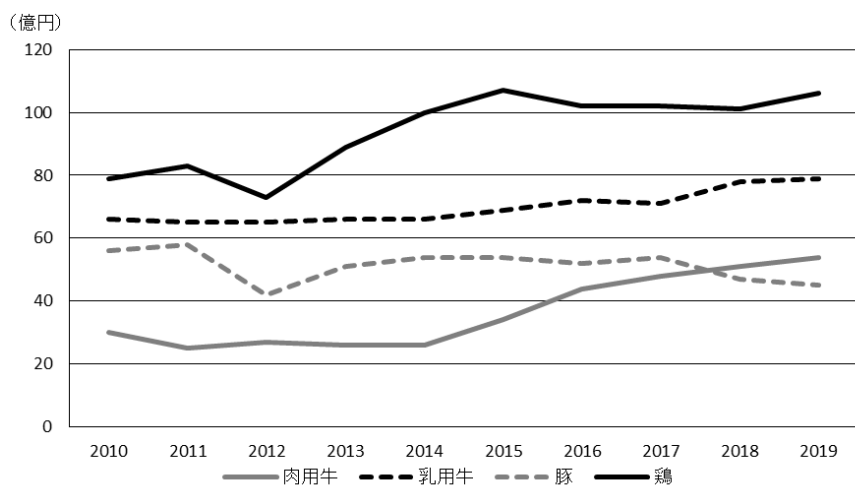


図7 鳥取県における畜産項目別産出額の推移  
(生産農業所得統計より作成)

## 2) 鳥取県における畜産業の近況と現状

続いて鳥取県の畜産業の現状と近況について述べる。図6より、近年の畜産産出額が農業産出額に占める割合は、2019年時点で761億円の農業産出額に対して畜産産出額は286億円であり、前述した全国的な傾向と同じく、3割程度を維持している。また、近年の畜産産出額は、2012年以前は横ばいであったものの、2012年以降に増加傾向に転じていることがわかる。また、図7は鳥取県の畜種別の産出額の推移を表したものである。肉用牛や鶏の項目では産出額が増加傾向であることがわかる。この要因を探るために、以下の項では鳥取県の畜産業の現状を項目ごとに見ていく。なお、市町村別の産出額については、県全体の産出額から各市町村の飼養頭数に応じて按分を行ったものである。

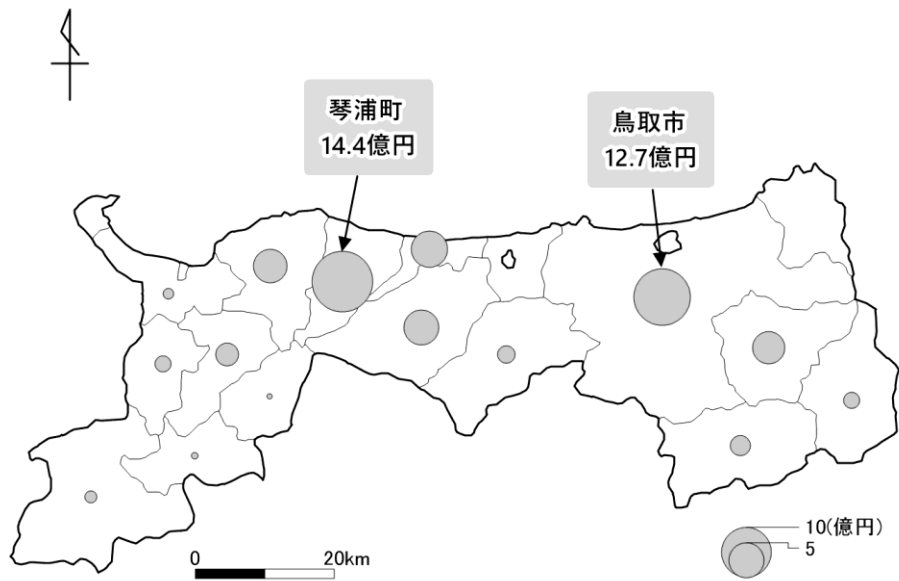


図8 鳥取県における市町村別の肉用牛産出額（2019年）  
（生産農業所得統計より作成）  
※産出額が非公表の市町村は除く、以下図14まで同じ

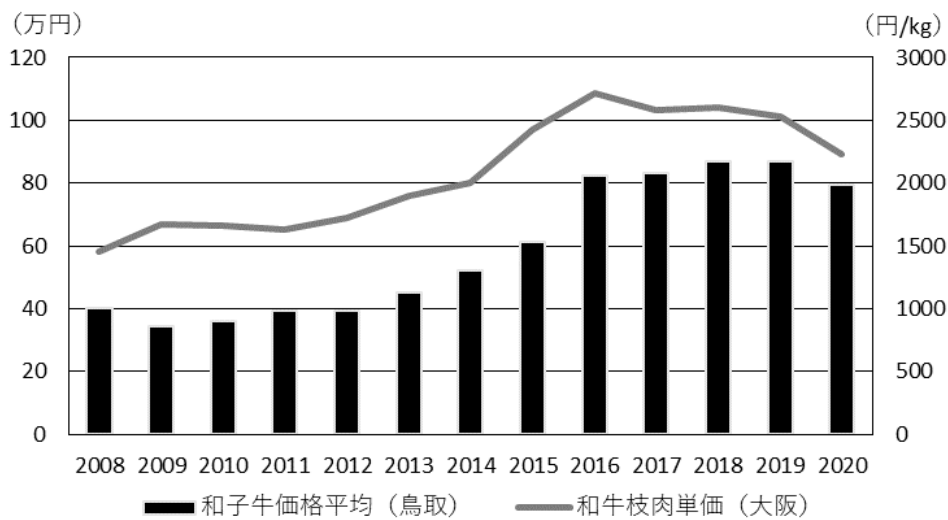


図9 鳥取県における和子牛価格と大阪市中央卸売市場における和牛枝肉価格の推移  
（鳥取県畜産行政の概要より作成）

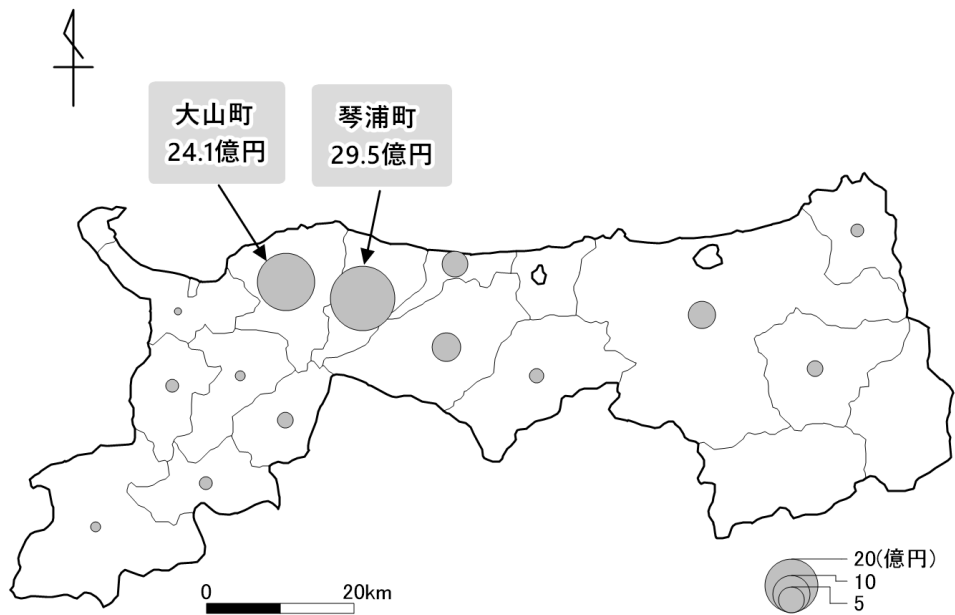


図 10 鳥取県における市町村別の乳用牛産出額（2019年）  
（生産農業所得統計より作成）

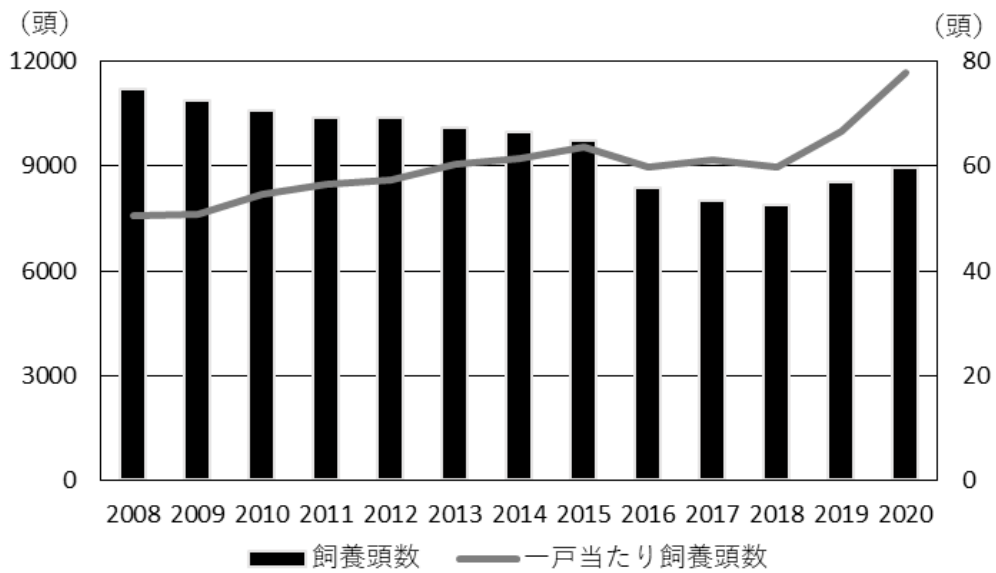


図 11 鳥取県における乳用牛の飼養頭数と一戸当たり飼養頭数の推移  
（畜産統計調査より作成）

肉用牛において、鳥取県は「白鵬 85 の 3」や「百合白清 2」といった優秀な種雄牛を有しており、優秀な遺伝子を受け継いだ子牛の生産と、他県への出荷が盛んである。図 8 より、鳥取県において肉用牛の産出額が最大の市町村は琴浦町であり、そこに県庁所在地である鳥取市が続いている。琴浦町では大山山麓に、鳥取市では郊外に多数の生産施設があるからではないかと考えられる。前述した図 7 では、2014 年以降の肉用牛の増加が目立っていたが、この要因として挙げられるのは図 9 に示したような鳥取県における和子牛価格や大阪市中央卸売市場といった大都市部における和牛枝肉価格の上昇である。2011 年から子牛価格や枝肉価格が徐々に上昇していることがわかり、2020 年には鳥取県中央家畜市場における 1 年の平均和子牛価格が全国 1 位になった。また、2017 年には「白鵬 85 の 3」の子牛が全国和牛能力共進会において 2 位になるなど、優秀な種雄牛が存在することから各農家の増産意欲も高くなっており、これらが肉用牛産出額の増加要因となっていると考える。

続いて乳用牛の状況を見ていく。図 10 より、鳥取県においては琴浦町の産出額が最大であり、そこに大山町が続いていることがわかる。両町とも大山の山麓に位置する自治体であることから、大山の山麓は酪農に適した地域であると考えられる。鳥取県では乳用牛産出額の約 85%にあたる 68 億円が生乳の産出額となっており、その全量が県内で加工されたのちに県内外へと出荷されている。前述した図 7 より、乳用牛の産出額は 2014 年の 66 億円から 2019 年の 79 億円へ増加しており、増加傾向であることがわかる。この要因として考えられるのは農場の大規模化である。農林水産省が主導する畜産クラスター事業に基づいた大規模な農場が 2019 年に大山町では大山山麓の羽田井地区に株式会社ブッシュクローバが完成した。図 11 に示したように、2018 年以降一戸当たり飼養頭数が増加しており、他の農場の規模拡大も進んだと考えられる。また、県全体の乳用牛の飼養頭数増加に伴い、生乳生産量が増加したことにもよると考えられる。

前述した図 7 より、近年の豚の産出額は横ばい傾向であることがわかった。聞き取り調査によると、1985 年ごろまでは様々な農家で豚の飼育がおこなわれていたが、環境問題の顕在化や外国産豚肉の輸入量の増加と豚肉価格の低下などが重なり、農家の廃業が続いていた。一方、企業による養豚施設の新設や拡大も続いたため、図 13 より、一戸当たりの飼養頭数は増加していることがわかり、農家の廃業による飼養頭数の減少を企業が補う形になったため、結果として豚の産出額が横ばいとなっていることがわかる。現在の鳥取県では企業による大規模な経営が主となっており、「大山ルビー」をはじめとしたブランド豚の生産が行われている。図 12 より、鳥取県における豚の産出額は大山町が最大であることがわかる。大山町には大規模な養豚施設であるファロスファームの名和農場が立地しており、この影響で大山町の豚飼養頭数は鳥取県全体の約 58000 頭に対して、その半分以上にあたる約 39000 頭となっていることから、豚の産出額が鳥取県内で最大になっていると考えられる。



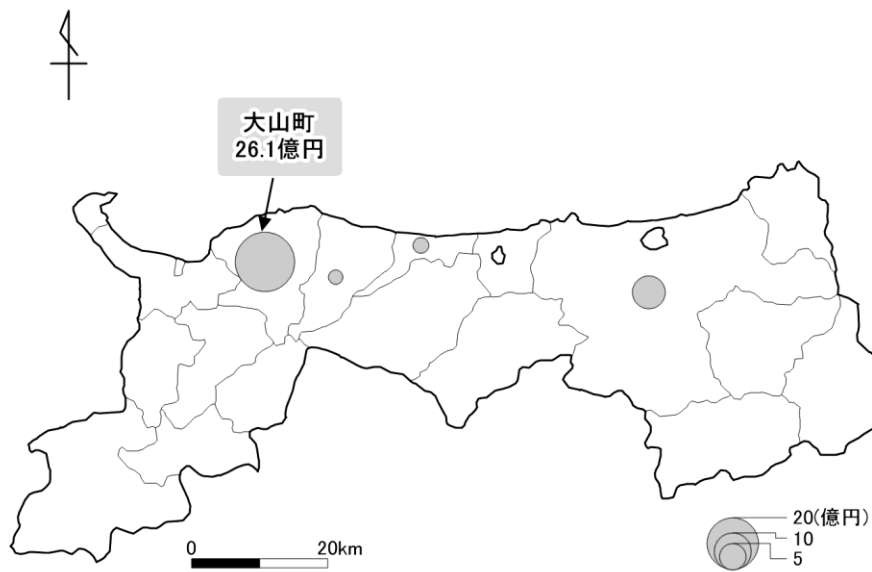


図 12 鳥取県における市町村別の豚産出額（2018 年）  
（生産農業所得統計より作成）

※本図のみ 2019 年のデータが不十分であったため、2018 年のデータを用いた。

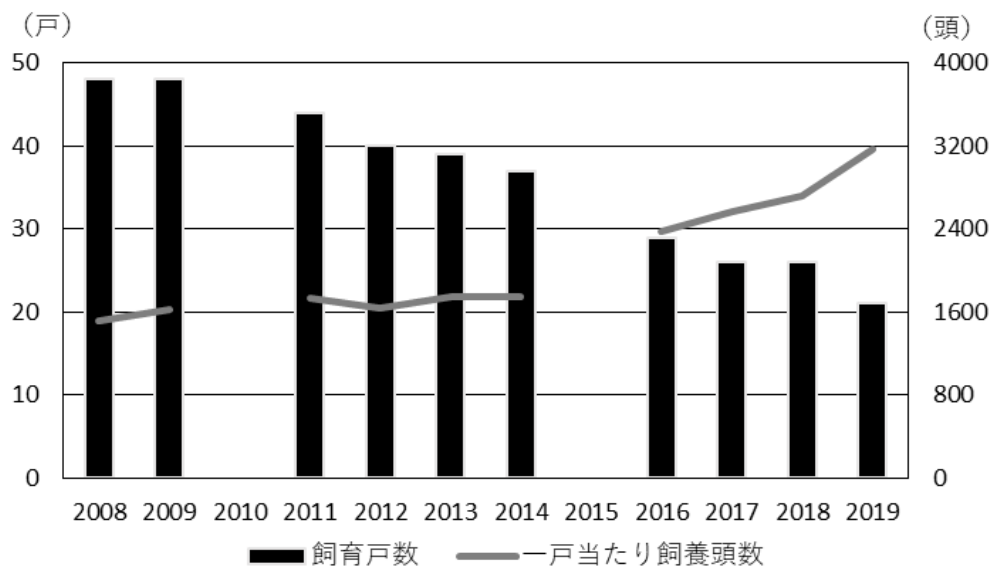


図 13 鳥取県における豚の飼育戸数と一戸当たり飼養頭数の推移  
（畜産統計調査より作成）

※2010 年と 2015 年は経済センサスの実施年であるため、データなし

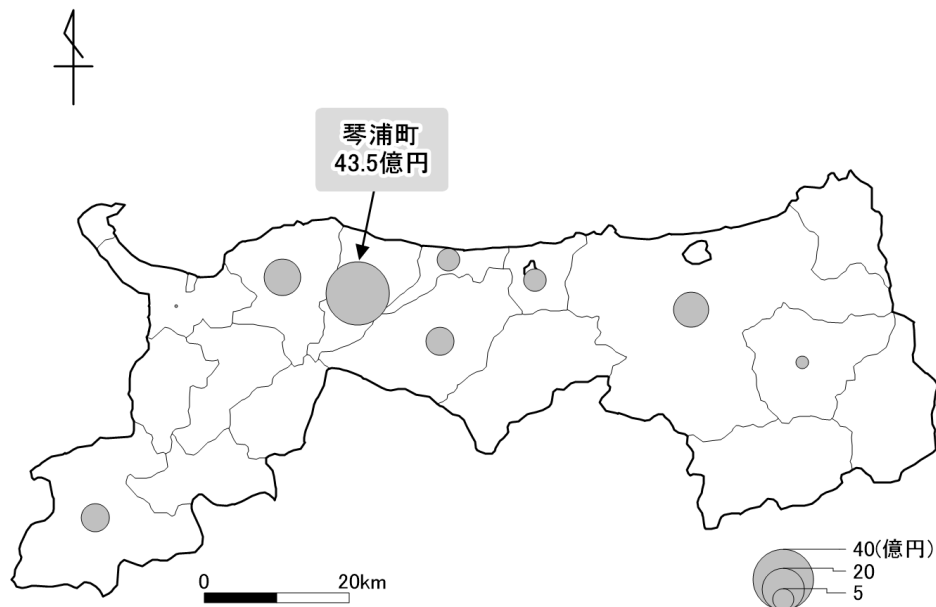


図 14 鳥取県における市町村別の鶏産出額（2019 年）  
（生産農業所得統計より作成）

前述した図 7 より、2012 年以降の鶏の産出額は 2012 年の 73 億円から 2019 年の 106 億円へと増加しており、増加傾向にあることがわかる。近年、鳥取県では農協系の団体や、小売業などのブロイラーを扱う企業が農場の規模拡大を行っており、これが産出額の増加要因となっている。図 14 によると、鳥取県において鶏の産出額が最大の市町村は琴浦町である。詳細は後述するが、琴浦町には大規模な農場が多数存在していることから、産出額が大きくなっていると考えられる。現在の鳥取県では「鳥取地どりピヨ」を始めとした銘柄鳥や、企業が商標登録を行った様々なブランド鶏が生産され、県内外へと出荷されている。

本項では鳥取県の畜産業の現状について統計資料を用いながら述べた。高品質なブランド化された畜産品の生産による市場価値の上昇や、大規模な企業の参入によって産出額が増加していることがわかった。特に個人で生産を行う畜産農家が減少している一方、企業の参入によって産出額が増加していることは重要な点であると考えられる。

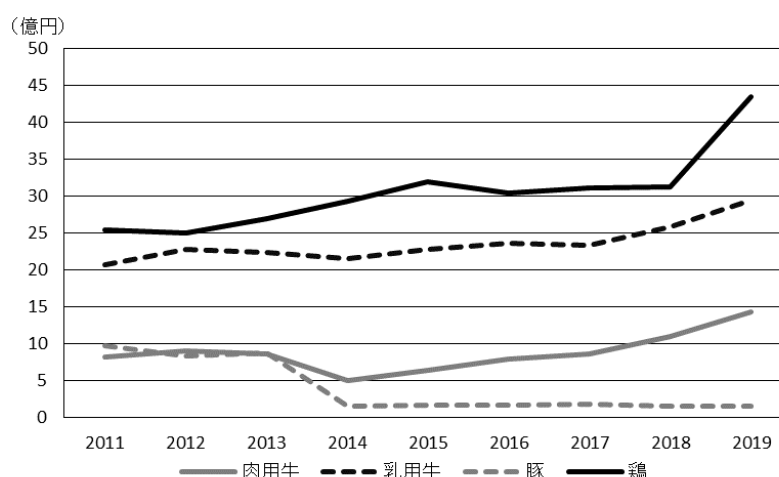


図 15 琴浦町における畜産項目別の産出額の推移  
(生産農業所得統計及び鳥取県畜産行政の概要より作成)

※2011年から2013年は筆者による推測値

### 3. 琴浦町における畜産業

#### 1) 琴浦町における畜産業の現状

前章より、鳥取県における項目別の畜産産出額のうち、肉用牛・乳用牛・鶏の項目では琴浦町の産出額が最多であることが分かった。鳥取県の畜産業において琴浦町が果たす役割は大きいと考えるため、琴浦町の畜産業について特筆すべき箇所を取り上げていく。

図 15 より、鶏の産出額は 2011 年の 25.4 億円から 2019 年の 43.5 億円へと増加しており、特に 2018 年から 2019 年にかけては 12.2 億円の増加となっている。肉用牛の産出額は 2014 年の 5 億円が最低値となっていたが、2019 年の 14.4 億円へと 3 倍近く増加している。乳用牛の産出額は 2011 年の 20.7 億円以来横ばいであったが、2018 年から 2019 年にかけて 3.7 億円増加し、2019 年の産出額は 29.5 億円である。豚の産出額は 2011 年には 9.7 億円であったが、2014 年以降は 1.5 億円前後となっている。

琴浦町における畜産業の特徴として挙げられるのは、大企業が主体となった農場が集中的に立地していることである。本稿では大規模な畜産業者としてまず A 社に注目することにした。A 社は大規模な畜舎を図 16 の笠見地区に展開しており、2020 年の琴浦町全体の肉用牛の飼養頭数である約 5900 頭の約 30%にあたる約 1700 頭を飼育する県内でも有数の規模である。A 社では、2007 年に登録された琴浦町の地域団体商標であるブランド牛「東伯和牛」を展開しており、大規模な飼養状況と前項で述べた和子牛価格の上昇や枝肉価格の上昇が相互に作用することによって、図 15 における 2014 年以降の肉用牛産出額の増加の要因となっていると考えられる。なお、図 16 にあるように、琴浦町内には他にもいくつかの牛舎がみられ、中小の事業所や個人事業主が経営していると考えられる。

次に琴浦町において鶏の生産を行う大規模な企業として挙げられるのは、大手食品メーカーの米久グループに所属する B 社である。聞き取り調査によると、琴浦町には B 社の大規模な鶏舎が図 16 の笠見地区・八橋地区などの丘陵地帯や、三本杉地区・中津原地区などの川沿いに集中して立地しており、琴浦町の畜産産出額や鶏の産出額を押し上げている重要な企業であることがわかった。B 社は「鳥取のとり」や「大地のハーブ鶏」といったブランド鶏を展開しており、B 社は食肉加工メーカーとして 1965 年に創業した米久が母体であり、2006 年に東伯町農協から鶏肉事業を譲り受け、2007 年に米久東伯として操業を開始した。2016 年に伊藤ハムと共同持株会社を設立して経営統合を行うことで、現在の社名となっている。B 社は 2018 年に図 16 の八橋地区において年間出荷羽数約 140 万羽の規模を誇る帽子取養鶏団地の建設を完了しており、これが図 15 の 2018 年から 2019 年にかけての鶏の産出額の急激な増加に関連していると考えられる。なお、旧東伯町では米久に鶏肉事業の譲渡を行う前から JA が主体となって鶏の生産を行っていたが、聞き取り調査によると、これには当時 JA 東伯の組合長であった花本美雄氏の尽力が大きかったのではないかとのことであった。

## 2) 琴浦町における畜産関連施設の分布

図 16 は大規模な農場を筆者が現地調査などによって独自に抽出したものである。図 16 より、琴浦町では町の中央部に存在する比較的標高の高い丘陵地帯である笠見地区・八橋地区に 13 か所、三本杉地区・中津原地区といった川の上流部に 8 か所の主要な農場が存在する。また、下大江地区・杉下地区をはじめとした、川が平野部へ大きく流れ出ている場所にも主要な農場が 6 か所存在していることがわかる。以上より、琴浦町では丘陵地帯に農場が比較的多く存在していることがわかる。琴浦町は中国地方で最高峰の山である大山の山麓に位置しており、自然豊かな環境できれいな水や澄んだ空気が豊富に存在し、家畜の生育に適した環境であることから、家畜の生産施設が集中していると考ええる。一方、大山の山麓であることから平野が少なく、大規模な米作の展開が難しいことから、丘陵地帯でも生産が可能な畜産業が発達したのではないかと考える。また、八橋地区・笠見地区には東西に広域農道が、三本杉地区・中津原地区にも南北に県道が整備されており、飼料の輸送や家畜の移送の際の利便性を備えた立地であると考ええる。

赤碕駅付近には鳥取県の畜産試験場や家畜改良センターが位置しており、家畜の改良や生産技術の開発が琴浦町を中心に行われていることがわかる。また、浦安駅の周辺には肉用牛・鶏・生乳の加工工場が立地しており、丘陵部の農場や川沿いの農場との往来が容易な立地であることから、家畜の移送や製品の輸送の便が良い立地であると考ええる。一例として、前述した B 社の農場は全ての農場が上記の鶏加工工場まで 30 分以内の立地であり、琴浦町内で鶏の生産と食肉への加工を一括して行うことができる効率的な配置になっていることが注目される。

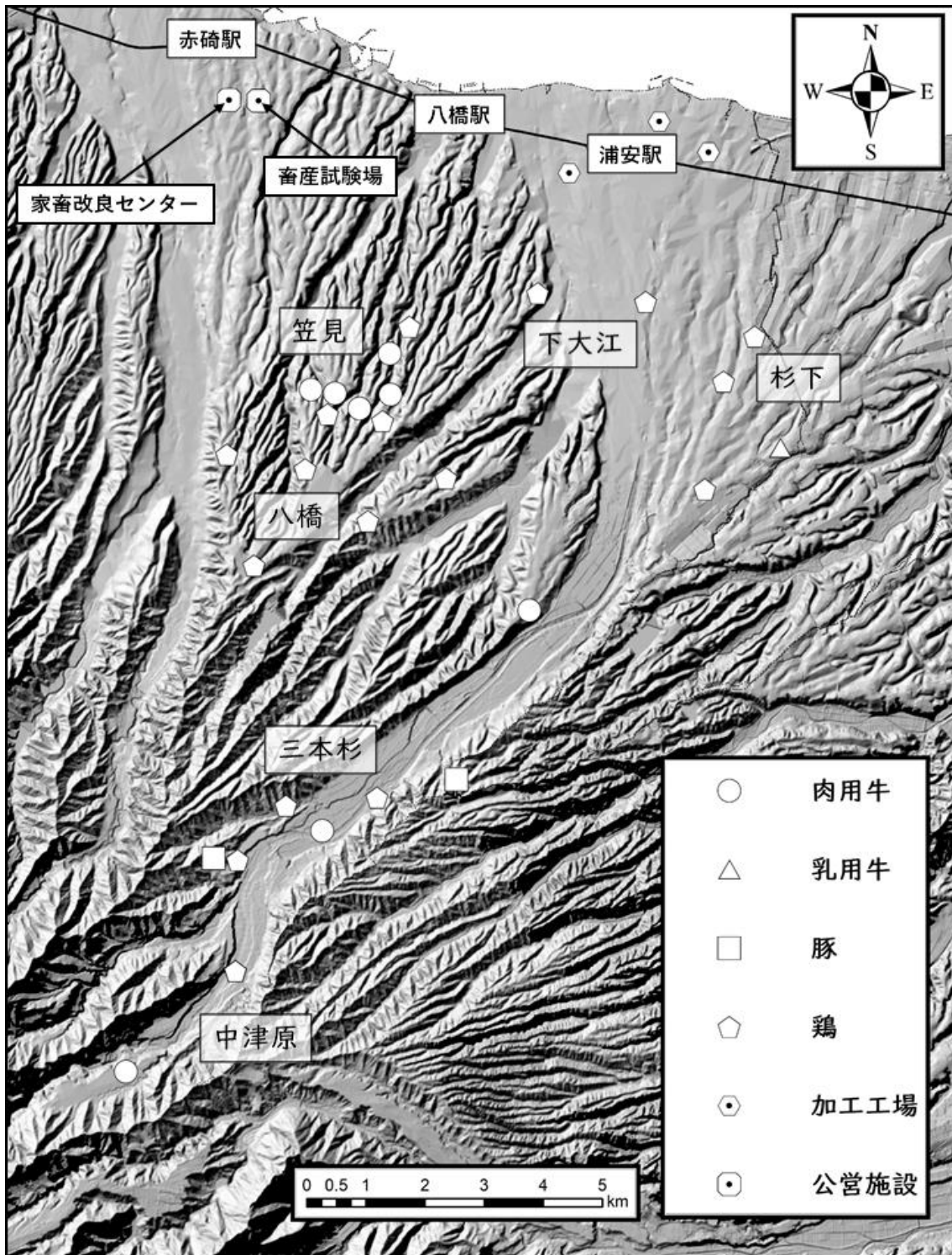


図 16 琴浦町における主な畜産農場と関連施設の分布  
(現地調査及び住宅地図より作成)

#### 4. おわりに

本稿では鳥取県の畜産業の実態と特徴について、琴浦町における畜産施設の分布を中心に考察した。鳥取県の畜産産出額は全国的に見ると大きな値ではなかったものの、県独自にブランド化された鶏や豚などの畜産物の存在や、優秀な種雄牛の存在による子牛の生産によって、全国の畜産業における独自の地位を築いていることがわかった。また、琴浦町では平野が少なく、米を中心とした既存の農業が行いにくい地域でありながらも、大山山麓という地理的な特性を生かした多数の畜産農場の立地が行われており、大規模な企業の展開によって畜産業が活発に行われていることがわかった。また、これらの企業によって鳥取県、そして琴浦町ともに畜産産出額が増加傾向にあることがわかった。

近年、日本では海外産の畜産物が大量に輸入されるようになり、国産の畜産物の重要性が叫ばれている。今後、このような動きの中で鳥取県の畜産業がどのような特色を出していくのか注視していきたい。

#### 付記

本稿を作成するにあたり、鳥取県農林水産部畜産振興局畜産課 野儀卓也様、琴浦町役場農林水産課 佐々木幸恵様にはお忙しい中にもかかわらず大変お世話になりました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

---

#### 参考文献

株式会社西日本ジェイエイ畜産 農場・飼育規模（最終閲覧 2021. 11. 29）

<http://www.w-jafarm.co.jp/company/farmdata.html>

鶏鳴新聞 伊藤ハムと米久が経営統合 平成 28 年 4 月に共同持株会社設立 2015 年 10 月 5 日（最終閲覧 2021. 11. 30）<http://keimei.ne.jp/article/20151005n2.html>

鶏鳴新聞 米久おいしい鶏の帽子取養鶏団地が竣工 年間 140 万羽出荷の農場に 2017 年 9 月 25 日（最終閲覧 2021. 11. 30）<http://keimei.ne.jp/article/20170925n3.html>

鶏鳴新聞 米久が西日本に鶏肉拠点確保 東伯町農協の事業を引き継ぐ 2006 年 9 月 5 日（最終閲覧 2021. 11. 30）<http://www.keimei.ne.jp/article/20060905n2.html>

食品産業新聞社 シリーズ工場訪問 米久おいしい鶏・鳥取県における鶏肉生産事業 2017 年 9 月 13 日（最終閲覧 2021. 11. 30）

<https://www.ssnp.co.jp/news/meat/2017/09/1709140007467170.html>

日本養鶏協会 鶏卵を巡る情勢（最終閲覧 2021. 12. 26）

[http://www.jpa.or.jp/tokei/pdf/jyousei\\_210902.pdf](http://www.jpa.or.jp/tokei/pdf/jyousei_210902.pdf)

鳥取県 畜産課所管の公表資料 畜産行政の概要（最終閲覧 2021. 11. 30）

<https://www.pref.tottori.lg.jp/3687.htm>

農林水産省 生産農業所得統計（最終閲覧 2021. 10. 25）

[https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/nougyou\\_sansyutu/](https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/nougyou_sansyutu/)

農林水産省 畜産物流通調査（最終閲覧 2021. 11. 30）

[https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/tikusan\\_ryutu/](https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/tikusan_ryutu/)

有限会社 とうはく畜産（最終閲覧 2021. 11. 29） <http://touhaku-chikusan.com/>

読売新聞オンライン 子牛価格 初の全国1位 2021年3月18日（最終閲覧 2021. 11. 30）

<https://www.yomiuri.co.jp/local/tottori/news/20210317-0YTNT50058/>

米久おいしい鶏株式会社（最終閲覧 2021. 11. 29）

<http://www.yonekyu-oishiitori.co.jp/>

